

自転車ツーキニスト  
疋田智Produce!

# これが夢のスーパー通勤自転車だ

## 自転車を通勤に使いたい。

しかし鈍重なママチャリでは、漕ぎが重いばかりでつまらない。さりとして、バリバリのドロップハンドルを装着したロードバイクというわけでもない。そこで通常の自転車ツーキニストが選ぶのが、いわゆる「クロスバイク」です。しかしハンドルが低いはずの、そのクロスバイクにしても尻が痛くなる、雨の日は走れない、手首が何か痛い、変速機に慣れない、荷物をどうする、などなど、通勤への不満はそれなりに出てくるでしょう。そこを何とか快適にするアプローチはないか。そこで、自転車ツーキニスト疋田智が、15年におよぶ往復24kmの自転車通勤体験から細部にまでこだわり、通勤に最適な自転車を作ってみました。このちょっと懐かしい乗り心地と、素晴らしいスピードを、ぜひご体験ください。



### こだわりポイント①

#### 軽さ



まずは、ごく乱暴に言いますと、**自転車の性能は、イコール軽さです。**通常のママチャリは20kg前後はあるものですが、これでは重すぎる。これを**10~12kg程度に下げる。すると、坂が上れる、スピードが出る、距離が伸びる、と良いことばかり。**自転車の本来の性能はこれです。こうなると初めて自転車生活は楽しいものになる。通勤如何に関わらず、自転車は軽さ次第なのです。まずはここにこだわりました。

### こだわりポイント②

#### プロムナードバー



初心者がスポーツバイクに長時間乗っていると、てきめん尻が痛くなります。しかし、実は痛いのは臀部ではありません。スポーツバイクの前傾姿勢をとると、初心者は股間を直接サドルに当てることになり、ここが痛むのです。そこで、**前傾でありながらも体重が臀部にかかるように、ハンドルをサドルに近づけてみました。おまけにプロムナードバーはハンドルを縦に握ることになり、これも「楽」に結びつきます。**

### こだわりポイント③

#### 11段変速内装ギア (アルフィーネ)



このALFINEというパーツは、ハブの中に11段の変速機が内蔵されています。スポーツバイクと違って**ギアがむき出しになっていないので見た目もすっきり綺麗。**それでいてMTBと同じくらいの変速比をカバーしているので、どこでも行けちゃうんです。しかも**内装なので、停車中でも変速できて、まさに通勤にはベストな選択肢です。**

### こだわりポイント④

#### ホイール



今回採用したホイールサイズは26インチ。通常のロードバイクに採用される27インチ強(700C)のものに比べて小さめです。これは都市圏の通勤にはGO&STOPが多いことを勘案したものです。**ホイールが小さいと、漕ぎだし・停車がスムーズになり、キビキビ走ることができます。**また、よりハイスピードをにらみ、1インチの細くハイブレッシャーのタイヤを採用しました。スピードと乗り心地のバランスが高いレベルでバランスされています。

### こだわりポイント⑤

#### エレキフリー (ハブダイナモ)



バッテリーを必要としないことも重要視しました。電池があろうとなかろうと、夜になれば「必ず点く」ということを目指したからです。安全上も法規上も夜間のライトは必須。ただ、ダイナモを倒して漕ぎが重くなるのも避けたい話です。そこでほぼストレスフリーのハブダイナモを採用。ライトも、明るいの消費電力の少ないLEDにしました。震災以降、**バッテリーがなくても自家発電可能**というのは大きな安心に結びつくはずですよ。

### こだわりポイント⑥

#### 荷物の置き場所



通勤自転車としては、荷物(バッグ)の置き場所は必須です。背中に背負うという選択肢もありますが、夏場は背中かなりの汗がたまってしまいます。日本スタンダードは前カゴ。しかし**重量物を置くとハンドルが取られるということもあり、安定感のあるリアキャリアにしました。**ヨーロッパでは、荷物はリア置きが主流。これは、ヨーロッパの自転車が、日本のママチャリと違って、軽い前傾姿勢が基本になっていることと無関係ではありません。

### こだわりポイント⑦

#### ディスクブレーキ



ディスクブレーキは制動力が高く、**雨の日も性能が落ちません。**しかし、重量が多少あるのと、少々高価なのがマイナスポイントです。一般的なリムブレーキ(キャリパー、Vブレーキなど)も悪くはありませんが、雨の日の制動力が多少劣ると、ブレーキシューが擦れ、ホイールが黒くなってしまふことから、**晴雨を問わない通勤ユースという観点からディスクを採用しました。**

### こだわりポイント⑧

#### サドル



大まかに言って、サドルは軟らかいと乗り心地がよくなり、**堅いと脚力を伝達しやすい、すなわちスピードが出やすくなる**という傾向を持っています。そのバランスをどうするか。ここは人それぞれの好みですが、今回は、若干堅めで、クラシックな趣きを持つ「革サドル」を採用しました。**革サドルは、長く乗っているうちに、自分の尻型に次第に馴染んでいき、唯一無二の乗り心地に育ち、自然、愛着も生まれてくるものです。**

### こだわりポイント⑨

#### 泥よけ



通勤ユースでの雨の日にも最も不快なのは上からの水(雨)と言うより、**下からの水、すなわち水ハネ**でしょう。この水ハネは路上の油や砂などを含んでいるために、お尻から背中までがスジ状に黒くなってしまいます。しかも洗濯しても落ちにくい。そこで泥よけ。スポーツバイクのシンプルさは魅力ですが、**ピタリと収まったスタイリッシュな細身の泥よけならば、これはこれで魅力あるフォルムとなるはずですよ。**

### こだわりポイント⑩

#### センタースタンド



軽量で安定性に優れ、**見た目を損ねないセンタースタンドは、ヨーロッパでは圧倒的なシェアを誇っています。**日本のママチャリがリアスタンド主流なのは、実は、マンションの駐輪場など、狭い所に停めざるを得なかったという事情が、そうさせているだけなのです。**昨今のキャリア付きの駐輪場などでは、センターのアドバンテージばかりが光ります。**

あなたが欲しい  
スーパー自転車大募集!

みなさんの「あったらいいな、こんなスーパー自転車!」をお聞かせください!  
エコプロ2011では、疋田氏のスーパー通勤自転車を実現しましたが、  
エコプロ2012では、あなたのスーパー自転車が実現するかも!?